

「防災ワークショップ2022 中部」について

「防災ワークショップ2022 中部」について(開催概要)

【開催趣旨】

- 令和4年2月25日、『南海トラフ地震対策中部圏戦略会議』10年を振り返る取組の一環として「南海トラフ地震臨時情報」が発表された場合に社会がどうなるのか、その際に産官学民のそれぞれが取るべき行動や事前準備について理解を深めるため、「防災ワークショップ2022 中部～南海トラフ地震臨時情報発表、その時あなたは…～」を開催

【特徴と工夫】

- 「南海トラフ地震臨時情報」に着目・特化して、プロジェクションマッピングを使用した体感型のイベントは**全国初の開催**
- 巨大地図とプロジェクションマッピングの活用、実際のアナウンサーによる速報ニュースや気象庁職員による本番を模した会見などにより、参加者が実際に体験しているような**臨場感あふれる情報を発信**
- 新型コロナウイルス感染防止対策のため、無観客開催として**YouTubeによるライブ配信**を実施
会場参加者は**必要最小限に限定**(ワークショップ参加機関・報道機関・スタッフ)し、マスク着用、消毒、検温等を徹底

【ワークショップ概要】

- 日時：令和4年2月25日(金) 10:00～13:00
 - 方法：YouTubeによるライブ配信
(会場：ドルフィンズアリーナ 第一競技場)
 - 内容：
 - 主催者挨拶《堀田 中部地方整備局長》
 - 『南海トラフ地震対策中部圏戦略会議』の紹介
 - ワークショップ《進行：名古屋大学 福和教授》
 - ①学習パート
 - ・福和教授による南海トラフ地震の講話
 - ・プロジェクションマッピングで見る南海トラフ地震
 - ・内閣府、気象庁による「臨時情報」の説明
 - ②演習パート
 - ・臨時情報発表の実演【西側半割れ地震の発生から臨時情報(巨大地震警戒)発表まで】
 - ③討論パート
 - ・福和教授と参加機関によるディスカッション
 - 総括コメント《名古屋都市センター 奥野センター長》
- 《参加機関 18機関》 ※Webによる参加
内閣府*、気象庁*、名古屋地方気象台、中部経済産業局*、中部運輸局、中部地方環境事務所、中部地方整備局、静岡県*、愛知県、三重県*、名古屋市、豊橋市、田原市、(一社)中部経済連合会、中日本高速道路(株)名古屋支社、(一社)愛知県建設業協会、中部ブロックDMAT連絡協議会、名古屋テレビ放送(株)

【ワークショップの様子】



「防災ワークショップ2022 中部」について(抽出課題)

◆ ワークショップで抽出された課題

● 住民・事業者等への普及・啓発

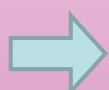
- ・ほとんどの人が「南海トラフ地震臨時情報」という言葉すら知らない現状
- ・臨時情報を発表する目的、発表された際取る行動について正しく理解されていない
- ・巨大地震が発生した際に自身へ降りかかる被害のイメージが広く一般に浸透していないため、耐震性のない家や土砂災害の危険性が高い場所に住んでいる方の事前避難に対する意識が低い
- ・また、巨大地震に対しての日頃からの対策(建物の耐震化など)も不十分



戦略会議としても更なる「臨時情報」の普及・啓発活動に資する場を引き続き創出

● 臨時情報発表時の迅速で分かり易い情報発信

- ・臨時情報(調査中)の発表から次の情報が発表されるまでに時間が掛かる
- ・その時間帯が最も切迫度が高いにもかかわらず、切迫度が伝わってこない
- ・半割れ地震が発生した場合には報道機関は被災地の状況を伝えることに精一杯となるため、後発地震に備えるための臨時情報についての報道は後回しとなる
- ・今まで発表されたことがない情報であり、地域住民に向けた情報発信の環境整備が不十分



内閣府・気象庁・地方気象台などの情報発出機関と報道機関、自治体などの関係機関において対応